

令和1年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000715	事業の開始年月日	平成31年4月1日
		指定年月日	平成31年4月1日
法人名	有限会社スマイル介護サービス		
事業所名	スマイル汲沢の家		
所在地	(〒245-0062) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢町1050-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果 市町村受理日	令和2年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先 <http://center.rakuraku.or.jp/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「スマイル汲沢の家」は、ご自宅にいるのと同様に地域とのつながりを大切にしています。また、スタッフ同士が協力し、ご入居様が安全且つ安心して日々を穏やかに過ごしていただけるよう努めております。

毎週金曜日に開催されている太極拳では、講師の先生のご指導の下、ご入居様はじめスタッフも共に参加し、精神集中とリハビリに役立っております。また、不定期ですが、バイオリンやピアノのプロの方の演奏会も行われています。

今後は、防災訓練や行事に地域の方々にもお越しいただき、日々地域の方々との関わり、つながりを大切にしていきたいと思っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年5月28日	評価機関 評価決定日	令和2年6月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

◇職員間での利用者状況の把握と共有。  
・開所2年目の新しい事業所であるが、朝の申し送りは時間をかけて丁寧に行い、理念を唱和した後、利用者一人一人について確認した結果を、職員間で共有している。  
・職員は、日常の利用者の様子を把握しており、利用者に接する態度を始め、排泄、入浴、外出など、利用者に対し心のこもった支援に努めている。  
◇地域との繋がりを大切にした事業所運営  
・自治会に加入しており、利用者は、地域の夏祭りや餅つき大会に職員と共に参加し、また、ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めている。  
・地域のボランティアが、定期的に太極拳やバイオリン演奏で訪問しており、利用者は楽しみにしている。

#### 【事業所が工夫している点】

◇利用者全員が集まれる建物構造の活用  
・3階にある共用のリビングルームは、通常仕切りで2ユニットとして使用されているが、レクリエーション活動やボランティア来訪時には、仕切りを外して、利用者と職員全員が参加するスペースとして活用している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル汲沢の家1階
ユニット名	ブルー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念が書かれているパンフレットを所持しており、朝の申し送り時に唱和しています。年間計画と共に目標を掲げています。会議は随時行われ目標の確認・見直しをしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5項目からなる事業所理念を、玄関と事務所内に掲示し、常に職員の目に届くようにしている。</li> <li>・職員は、朝の申し送り時に理念を唱和して内容を確認し、常に自分の身内に接すると同じ気持ちで利用者のケアに当たっている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや、餅つき大会には、入居者様と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めています。また、防災訓練も共に行えるようお声かけしております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事や地域ケアプラザの催しは、運営推進会議で情報を得て、利用者は職員と一緒に参加している。</li> <li>・太極拳やプロのバイオリニストが、定期的にボランティアで訪問している。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの紹介等を、自治会の回覧板に入れてもらったり、施設の掲示板に入居者様の作品を掲示して、理解を得ています。夕涼み時などでお会いしたら会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようにと務めています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。また、グループホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は利用者家族、民生委員、地域ケアプラザ職員と管理者をメンバーに、2か月毎に開催している。</li> <li>・事業所裏手の空きスペースを、整備して、憩いの場所を設けてはとの意見があり検討中である。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、情報を提供し共有しています。区役所には、2か月毎に報告書を送付しています。また、生活保護課の担当者とは、連絡を密にして、相談・指導を受けています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の高齢・障害支援課には、運営推進会議の議事録を送付し、必要に応じて電話にて助言をもらっている。</li> <li>・生活支援課の担当者が、年に数回事業所に来訪する機会を取らへ情報交換している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入の心配もあり、安全のために玄関と各階の入口は施錠することで安全対策としています。法人全体で身体束縛をしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価しています。	・身体拘束に関する方針は、重要事項説明書に明記し、契約時に利用者と家族に説明している。 ・身体拘束防止委員会を設置し、毎月会議を開催し、結果は、申し送りノートに記入して、全職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修にてテーマにして虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を十分理解して、カンファレンス時などに、共通認識を持つことに努めています。（声掛けの仕方・言葉使いなど対応の見直しについて検討します）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を、すでに利用している入居者様については、後見人と情報交換を行い、連携を取り合っています。不定期ですが、パンフレットをもとに勉強会を行い職員の理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を感じて頂き、不安の軽減に努めています。契約時にも十分時間を取って説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心して入居頂けるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けています。また、面会時には、個別に意見等をお伺いしています。提出された意見を、運営に反映していけるようスタッフ間で話し合いの場を設けています。	・苦情処理体制を整え、玄関ホールとリビングに掲示している。利用者家族から要望・意見を聞く機会は、来所面会時の面談やご意見箱を活用している。 ・利用者や家族から、牛乳・ヤクルトなどの支給の要望があり、個別に対応し提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは管理者に入居者様の状態の変化に伴い、その都度相談をし話し合い、業務を改善するなどして解決できるようにしています。代表は管理者等からの報連相に対応します。	・職員の意見や要望は、朝の申し送り時に聴くほか、連絡ノートへの記入、又は、ご意見箱に投入などで収集している。 ・職員の提案を入れ、利用者が居室に戻る際、危険防止の観点から、必ず付き添うことを確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を話すことができます。外部研修に参加させていただき、介護や認知症について知識を高めることができ、職員同士で共有しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動の研修を行った時は、資料での説明だけでなく実践して行います。外部研修には職員のレベルに合わせた研修に参加し、カンファレンス時などに報告して共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービスの質が向上するように積極的に外部研修に参加し、研修に参加していない職員も研修報告にて学ぶ機会をもっています。研修時や研修後の交流会の時に積極的に交流の機会を持てるようにしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者様の生活歴やニーズを把握しています。ご入居後は、ホームに慣れていただくよう他入居者様と交流を持てるよう配慮し、安心して生活が送れるような関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホームの見学時や自宅を訪問した際にご家族様の要望やニーズを伺い、施設の説明をしています。電話や面会時、「スマイル通信」で入居者様の様子をお知らせし、ホームでの生活を把握し安心していただけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状態や、入居者様・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するようにしています。必要に応じて、地域包括支援センター等へ相談を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には人生の先輩として尊敬の念を持って接しています。それぞれの得意分野において、入居者様の教えを受けながら、一緒に作業して笑い合い、共に支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やお手紙、電話等により、その都度入居者様の状態をできるだけ細かくお伝えすると共に、その時々のお思いや要望をお聞きし、援助に取り入れていくことで、入居者様と一緒に支えていただけるように話をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人・友人の面会や電話の際には、これまでと変わらない関係でいていただけるように話をしています。また、馴染みの場所への外出等ができるだけ行うようにしています。	・友人の訪問には、居室に案内しているが、人数によっては談話コーナーを利用している。 ・馴染みの美容室でヘアカラーをしたり、入所前に通っていた交流サロンに出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士のテーブル配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないように共有し関わられるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他事業所へ入所してからも、面会に行くなど関係を継続しています。ご家族にも相談の支援を継続しています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の意思を確認し、一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけています。困難な場合でも声かけを行い、どうしても困難なケースは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の表情や仕草から思いや意向を汲み取っている。会話のできる利用者には傾聴に徹し、場合によっては居室でじっくり話し合うこともある。</li> <li>・入所時のアセスメントから、利用者の話の根拠を推察している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさんからの情報提供を受けたり、家族からの情報を参考にし、出来る事、関心のあることを活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な状況において、注意深く観察し、一人ひとりのその日の心身状態を正しく理解できるよう努めています。特に認知症が進行している方は状態が定まらず不安定なため、変化を見逃さず全職員で情報共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望に沿うことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、薬剤師等の意見も反映しています。	・介護計画の有効期間は原則1年として、3か月と6か月毎に、ケアカンファレンスを実施し、家族、職員の意見も聴き、変化があれば見直している。 ・日々のケアで、介護計画の内容を確認しモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等を業務日誌に記入しています。職員間で共有・理解して確認の上、ケアに生かしています。また、それらを計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活史を尊重し、ケアプランにそいっても、柔軟に変化させたサービスの提供を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週金曜日の太極拳教室やボランティアさんにより演奏会を開催して頂いたり、充実したレクリエーションを楽しんでおります。町内会に加入して地域のイベントにも参加していきたいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認して希望する病院にて受診し、継続した治療と通院にも対応しています。夜間の急な場合対応は看護師と嘱託医と連携し、診療情報の提供等を行っています。	・利用者数名が、以前のかかりつけ医を利用している他、家族の了解を得て協力医と契約している。 ・通院への対応は、家族に依頼しているが、独居者には、自費でヘルパーが付き添っている。終了後に診察の結果を確認している。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な来訪があり、バイタル測定や状態観察、相談を行っており、看護師は全員の入居者の状態を把握できています。また常に連携し、来訪や処置など対応できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問内科・訪問看護と定期的に情報交換をし、入退院時においても適切な対応が出来るように支持協力を得ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、延命についての説明を行っており、特に救急搬送の際に延命治療を希望するかの返事をもらっています。重度化・終末期の取組は、本人御家族の要望を取り入れ、今後の治療に向けての話し合いを行い、医療との連携を密にしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要事項説明書に「看取りに関する指針」を添付し、入所時に利用者・家族に説明している。</li> <li>利用者個々により、方針が違うため、それぞれに応じた対応をOJTで行っている。事業所内で1名の看取り経験がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度化・終末期の一般的な知識とケアについて、職員への研修が望まれます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修を取り入れたり、また、マニュアルをもとに全職員が繰り返し勉強しています。日ごろの不安に思うことは納得いくまで把握するようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力の元、防災訓練を行っています。その際には近隣の方にもお声かけしています。また、定期的に災害時の避難や準備をマニュアルに沿って確認しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は夜間想定を含め、年2回実施している。満室になる前に動線確認のための訓練を行った。</li> <li>災害備蓄品には、アルファ米などの食品、カセットコンロなどの備品を用意していますが、リスト化は行われていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄品の賞味期限等の管理のためにも、リスト化が望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけています。不適切な言葉使いや態度が見られた時には、管理者から尊厳についての認識を伝えています。	・利用者の人格を尊重し、「親しさ即フレンドリー」ではないことを念頭に、言葉遣いに注意し敬意をもって接するよう心がけている。 ・利用者の尊厳を守ることが、プライバシー保護に通じることを忘れないようにしている。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者には、選んだり決めたりすることをゆっくと待ち、職員側から決めないよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、入居者様の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを尊重しその人らしい身だしなみが出来るよう支援しています。また、季節に応じた衣服選び等も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、食事前に献立を話題にして会話を楽しみます。それから、負担なくできる範囲の配膳をしていただいたり、片づけを手伝ってもらっています。	・利用者の好みを日常会話の中で聞き取り、食事が出てきたときには「〇〇さんのお好きなものでしょう」と声掛け、食事が進むよう工夫している。 ・誕生会は、ケーキ、ドーナッツなどおやつでお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な摂取ができるよう努めています。一人ひとりの咀嚼、嚥下力に合わせ、食事形態を工夫し対応しています。またとろみをつけるなど、水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。歯間ブラシを使用し隙間の汚れを取り除いたり、毎食後の口腔の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを記録することで、一人ひとりの排泄パターンが把握でき、個々にあった支援ができています。できるだけ布パンツで過ごしていただけるよう努めています。またプライドを傷つけないよう言動には十分配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の排泄状況を介護記録で確認し、排泄パターンを把握して、オムツ利用者も含め、時間を見てトイレに誘導している。</li> <li>・夜間は時間対応で見守りし、転倒防止のため、ベッド上でオムツ交換をすることがある。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な場合を除いて水分摂取量が不足しないように気をつけています。また看護師に相談しながら腹部マッサージや温めたりと一人ひとりに沿った排泄支援を行っています。また、毎日体操を行い、便秘の予防支援に役立っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインや日中のご様子から体調を見極め、ご本人にお話ししてから入浴して頂いています。また、入浴中に会話・歌などを取り入れ楽しい時間を過ごしてもらっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は週2回、午前中に実施している。入浴を拒否する方には、無理強いせず利用者にもよるが、看護師から治療のためと声掛けをしてもらって成功した例もある。</li> <li>・異性に拒否のある場合は同性介助を行っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような言葉かけを心がけております。また、室内温度や照明を好みに合わせています。冬季には、加湿器を使用する方もいます。一人ひとりが安眠につながるようにと支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気と服薬、臨時に処方された薬はミスがないよう周知徹底しています。薬剤師さんにより一包化、日付記載等してもらっています。また日々の状態観察をし、医師や看護師との連携に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、入居者様一人ひとりに、気分転換や喜びにつながるよう意識しながら、得意なことをして頂けるように、レクリエーションや体操などを工夫しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出・外食を御家族様と楽しんでおられる方もいます。ご家族様が困難な方は自費ヘルパーさんのご利用で楽しまれることもあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、外出困難な利用者は、外気浴をしている。</li> <li>・正月に親戚と食事会に出かけたり、家族と墓参をする利用者もいる。外出の後、職員は利用者の様子を聞いている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。外出時の食事や買い物でお金が必要な時にはスタッフより都度ご本人に渡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各入居者様の状況や御様子を「スマイル通信」として、写真や手紙を添えてお知らせしています。また、随時お電話にてご様子をお伝えしています。また、入居者様の要望に応じて電話を利用して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を生けたり、入居者様の作った作品を飾ったりしています。壁には折り紙、塗り絵、書道等の作品を貼り鑑賞できるようにして、居心地の良い空間作りに配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの温度は、利用者の体感に合わせて調節し、湿度は冬場40%を切らないように心掛けている。清掃は食事時間をさけ、手の空いた職員が行っている。</li> <li>・利用者の席は、車椅子の動線確保、トイレの頻度に合わせた場所などを配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士で談話やテレビ鑑賞をして頂いております。入居者様がお好きな場所を選択出来る様支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人の意思を尊重し、使い慣れた物を使用していただき、御家族様からの手紙や写真を飾っています。今迄過ごされていた空間に近い部屋作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にはエアコン、ロッカーが設置され、利用者は、馴染のものを持ち込んでいる。</li> <li>・居室の清掃は、利用者がリビングで過ごしている間に、職員が行っている。衣類の整理は、利用者に声掛けし、職員と一緒にしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱する物の排除等、一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めています。		

事業所名	スマイル汲沢の家2階
ユニット名	ピンク

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念が記載されているパンフレットを所持しており、申し送り時に唱和します。また、年間計画と共に目標を掲げており、随時行われる会議時に目標の確認・見直しをしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや餅つき大会には入居者と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めています。また、防災訓練も共に行えるようにお声かけしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの紹介等を、自治会の回覧板に入れてもらったり、施設の掲示板に入居者の作品を掲示して、理解を得ています。夕涼み時などでお会いしたら会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようにと務めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。また、グループホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、情報の提供、共有を行っています。区役所には2か月毎に報告書を送付しています。また、生活保護の方たちの担当者とは連絡を密にして、相談・指導を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入の心配もあり、安全の為に玄関と各階の入口は施錠することで安全対策としています。法人全体で身体束縛をしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修にてテーマにし虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を十分理解して、カンファレンス時などに、共通認識を持つことに努めています。（声掛けの仕方・言葉使いなど対応の見直しについて検討しています）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をすでに利用している入居者については、後見人と情報交換を行い連携を取り合っています。不定期ですが、パンフレットをもとに勉強会を行い、不在スタッフには回覧で理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を感じて頂き、不安の軽減に努めています。契約時にも十分時間を取って説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心して入居頂けるよう心掛けています。		
10	6	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けていて自由に投函できます。また、面会時には、個別に意見等をお伺いしています。その意見を運営に反映していけるようスタッフ間で話し合いの場を設けています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設けていて、スタッフからの意見や提案を募集しています。管理者には入居者の状態の変化に伴いその都度相談、話し合い、業務を改善するなどして解決できるようにしています。代表は意見箱の確認と管理者等からの報連相に対応します。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表との面談時に個々の希望を話すことができることと意見箱に自由に投函することも可能です。外部研修に参加したり、介護や認知症について知識を高めることができています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動の研修を行った時は、資料での説明だけでなく実践して行います。外部研修には職員のレベルに合わせた研修に参加し、カンファレンス時などに報告して共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービスの質が向上するように積極的に外部研修に参加し、研修に参加していない職員も研修報告にて学ぶ機会をもっています。研修時や研修後の交流会の時に積極的に交流の機会を持てるようにしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者の生活歴やニーズを把握しています。ご入居後は、ホームに慣れていただくよう他入居者と交流を持てるよう配慮し、安心して生活が送れるような関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホームの見学時や自宅を訪問した際にご家族様の要望やニーズを伺い、施設の説明をしています。電話や面会時、「スマイル通信」で入居者の様子をお知らせし、ホームでの生活を把握し安心していただけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状態や、入居者・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するようにしています。必要に応じて、地域包括支援センター等へ相談を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には人生の先輩として尊敬の念を持って接しています。それぞれの得意分野において、入居者の教えを受けながら、一緒に作業して笑い合い、共に支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やお手紙、電話等により、その都度入居者の状態をできるだけ細かくお伝えすると共に、その時々のおいや要望をお聞きし、援助に取り入れていくことで、入居者を一緒に支えていただけるように話をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会や電話の際には、これまでと変わらない関係でいただけるように話をしています。また、馴染みの場所への外出等をできるだけ行うようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士のテーブル配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないように共有し関われるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他事業所へ入所してからも、面会に行くなど関係を継続しています。ご家族にも相談の支援を継続しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の意思を確認し、一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけています。困難な場合でも声かけを行い、どうしても困難なケースは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさんからの情報提供を受けたり、家族からの情報を参考にし、出来る事、関心のあることを活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な状況において、注意深く観察し、一人ひとりのその日の心身状態を正しく理解できるよう努めています。特に認知症が進行している方は状態が定まらず不安定なため、変化を見逃さず全職員で情報共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望に沿うことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、薬剤師等の意見も反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等を業務日誌に記入しています。職員間で共有・理解して確認の上、ケアに生かしています。また、それらを計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活史を尊重し、ケアプランにそいっつも、柔軟に変化させたサービスの提供を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんが定期的に演奏会やマジックショー等披露して下さり、充実したレクリエーションとなっております。また、カラオケや餅つき、お祭り等地域の行事に参加させて頂くなど、相互の交流が発展的に行われております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認して希望する病院にて受診し、継続した治療と通院にも対応しています。夜間の急な対応は看護師と嘱託医と連携し、診療情報の提供等を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の来訪があり、バイタル測定や状態観察、相談を行っており、看護師は全員の入居者の状態を把握できています。また常に連携し、来訪や処置など対応できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問内科・訪問看護と定期的に情報交換をし、入退院時においても適切な対応が出来るように支持協力を得ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、延命についての説明は行っており、特に救急搬送の際に延命治療を希望するかのお返事は頂いています。重度化・終末期の取組は、本人御家族の要望を取り入れ、今後の治療に向けての話し合いを行い、医療との連携を密にしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修を取り入れたり、また、マニュアルをもとに全職員が繰り返し勉強しています。日ごろの不安に思うことは納得いくまで把握するようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力の元、防災訓練を行っています。その際には近隣の方にもお声かけしています。また、定期的に災害時の避難や準備をマニュアルに沿って確認しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけています。不適切な言葉使いや態度が見られた時には、管理者から尊厳についての認識を伝えています。		
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者には、選んだり決めたりすることをゆっくりと待ち、職員側から決めないよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、入居者の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを尊重しその人らしい身だしなみが出来るよう支援しています。また、季節に応じた衣服選び等も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、食事前に献立を話題にして会話を楽しみます。それから、負担なくできる範囲の配膳をして頂いたり、片づけを手伝ってもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な摂取ができるよう努めています。一人ひとりの咀嚼、嚥下力に合わせ、食事形態を工夫し対応しています。またとろみをつけるなど、水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。歯間ブラシを使用し隙間の汚れを取り除いたり、毎食後の口腔の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを記録することで、一人ひとりの排泄パターンが把握でき、個々にあった支援ができています。できるだけ布パンツで過ごしていただけるよう努めています。またプライドを傷つけないよう言動には十分配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な場合を除いて水分摂取量が不足しないように気をつけています。また看護師に相談しながら腹部マッサージや温めたりと一人ひとりに沿った排泄支援を行っています。また、毎日体操を行い、便秘の予防支援に役立てています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインや日中のご様子から体調を見極め、ご本人にお話ししてから入浴して頂いています。また、入浴中に会話・歌などを取り入れ楽しい時間を過ごして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような言葉かけを心がけております。また、室内温度や照明を好みに合わせています。冬季には、加湿器を使用する方もいます。一人ひとりが安眠につながるようにと支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気と服薬、臨時に処方された薬はミスがないよう周知徹底しています。服薬ロボットを導入しており、二重チェックしています。また日々の状態観察をし、医師や看護師との連携に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、入居者一人ひとりに、気分転換や喜びにつながるよう意識しながら、得意なことをして頂けるように、レクリエーションや体操などを工夫しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内や近隣で外気浴を行っています。年2回外食会を企画し参加して頂いています。個々により、外出・外食を御家族様と楽しんでいただける方もいます。ご家族様が困難な方は自費ヘルパーさんのご利用で楽しまれることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。外出時の食事や買い物でお金が必要な時にはスタッフより都度ご本人に渡しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各入居者の状況や御様子を「スマイル通信」として、写真や手紙を添えてお知らせしています。また、随時お電話にてご様子をお伝えしています。また、入居者の要望に応じて電話を利用して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を生けたり、入居者の作った作品を飾ったりしています。壁には折り紙、塗り絵、書道等の作品を貼り鑑賞できるようにして、居心地の良い空間作りに配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士で談話やテレビ鑑賞をして頂いております。入居者がお好きな場所を選択出来る様支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人の意思を尊重し、使い慣れた物を使用していただき、御家族様からの手紙や写真を飾っています。今迄過ごされていた空間に近い部屋作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱する物の排除等、一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めています。		

# 目標達成計画

事業所名 スマイル汲沢の家

作成日 令和2年6月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	ADLに差があることと職員数がぎりぎりなことで、気軽に外出が可能な方とそうでない方の差が出てしまう。	車椅子の方でも、戸外に行きたいところに行けるようにして差を上げたい。	外出計画を立てる際に、臨時で介助員数を増やす工夫をする。 又は、個別にパーマをかけた方などには自費のサービスのご案内を提案してみる。	1年
2	2	新型コロナウイルスの影響で面会はお断りしている。	新型コロナウイルスが落ち着いたら、地域に根差した施設を目指し、お一人お一人が我が家で過ごしていた頃と近い環境と気持ちで日々過ごせるようにしていきたい。	地域の方をお招きしたり、地域から招待して頂いたりできる環境作りをしていきたい。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。